
ghosta city ((ゴーストシティ))

零夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ghosta city（ゴーストシティ）

【Nコード】

N6358Y

【作者名】

零夜

【あらすじ】

過去に人を殺し。

殺された一人の男が居た。

死んだ後と言うものは、普通は、あの世のはずだが。どう言う訳か。普通に暮らせてる。

地図に存在しない町。ゴーストタウン。そこで、少年を待ち受ける物とは、？

ブローグウゝ

俺の名前は、新川 あらかわ じん 迅。

突然だが俺は、人を一度殺し。

そして．．地図にも存在しない町。

ゴーストシティに住むことにした。

と言う訳か。その子を殺したと思ったら、

誰が黒い服の男が立っていて。

その先は、覚えていない。

だが俺は、確実に殺された。

その子の親なのか？それとも単に人殺しがしたいだけのキチガイさんかは、分からない。

なぜか死んだ後もこうして暮らしているのだ。

俺は、学園に入学した。試験もいらなそうだ。

そんな怪しい所に俺は、ほいほいと入ってしまった訳です；

クラスの奴らは、面白いが時に俺が痛い子になる；

そんな痛い俺の物語です。

過去・・・（前書き）

俺は、前から気になってる子が居てさ。
告白もして。ちゃんと愛してたんだ。
けどな・・・

過去．．

滋くん！！私達付き合つて。もう。2年近くだね．．」

迅「そうだな。それで？」

「キスまだだったね？」

今．．して？」

迅「え．．ああ、良いよ。」

俺は、肩を抱き寄せ。

彼女の口にキスをした．．

だが．．最悪なことが起こったんだ。

俺が口を離れたその瞬間の出来事．．

「うつ．．ああ！！苦しい．．苦しいよ．．迅．．くん。」

彼女は、冷たい地面に倒れこむ。

迅「はっ？おい！！なんだよ！！どうしたんだよ！！！」

黒い男「お前は．．危険だな。さよなら」

迅「お前っ！！誰．．う、がはあ！！！」

とくとくと血が流れるのが見える。

そして、俺の目の前は、真っ赤にそまる。

ピピピピピピ！！

迅「なんだよ；また夢か。そして、俺の静かな目覚めを邪魔する。

目覚まし時計と言う

恐怖だな！！今日は、入学式だったけな．．だる」

俺は、だる過ぎる思いをしながら、

学校の入学式に行く。

なぜかって？朝起きるより。教師に呼び出し食らつて。

説教つて、パターンの方が一番だるいに決まってるんだろ？

歩くこと、30分。

迅「ああ．．だるい。まあ、すぐ終わるならいいか。」

そこに誰かが俺にぶつかる。

迅「いてっ！！おいいてえぞ。」

「すみません．．急いでいるもので。では、」

迅「おいおい！！待てよ！！」

そいつの後を追ひ。俺は、入学式に間に合う。

俺の名前は、新川 迅。（あらかわ じん）

入学式に遅刻ぎりぎりできた。張本人だぜ！

まあ。校長のだるすぎる話も終わり。

その日は、その場解散だった。

そんな時、

迅「おいお前！！朝の！！」

「朝は、ごめんなさい．．では、私そろそろ行くので。」

と、またもや勝手に帰られる。

何なんだあいつ！

お前の頭の中に味噌つめてやろうか？

俺は、朝の事を色々愚痴りながら、帰る

一人で愚痴。周りから見ればただの変な人。

まあ．．俺は、そう思われても良かった。

この今いる世界の方がおかしいのだから。

そして、右に曲がったときの事、

「呪う．．」

迅「！！っ」

不意に後ろから声が飛ぶ。

迅「おいおい誰だ？人様にいきなり。不穏な言葉を投げつける奴は、

」

「呪うだけ．．」

迅「はあ？なんだよお前、頭のネジ何本抜けてんだ？」

「話す事などない．．」

と言うとそいつは、俺に向かって。

殺意をあらわすかのよう。

こっちに走ってくる。

迅「おい何だよ。いきなり。うわぁ――！」

俺は、両手で自分を守る。

もう終わりだ。

そう思ったとたん。

声がする。

「あぶないです――！下がってください――！」
この声は、？

過去・・・（後書き）

いきなりトラブルに巻き込まれる。迅速、何も出来ない。そこに女が走ってきた。

幸仁。(前書き)

突如あらわれた。黒い者達。

それを止めに来た。暗い少女、こと。ミス ネクラは、

俺をほつといて。一人で戦い始める。
逃げた先に。あの黒い服の男がいた。

幸仁。

逃げろと言われた俺こと、新川迅は、
逃げる途中、少年と出会う。

迅「ちくしょう。方向音痴という才能を持つ俺に、どうしろと!!」
「よう．．お前も逃げてたのか。」

迅「えっ？誰？」
「俺は、夢野 幸仁 ゆめの ゆきひと」

殺して、殺されてここに来た。
女を殺して。その後。迅雷にころされた。」

迅「お前．．女って、神川？」
幸仁「そうだね」

迅「てめえが．．あん時の犯人か．．」
幸仁「俺も命令で動いたから、」

そんなところに。
黒い奴らが現れる。

幸仁「くそっ．．逃げて!! 迅。行くぞ!! リングレバイアス!!」
レバイアス「了解」

俺は、戦う二人を背に。
あの女を助けに行く。

迅「いた!! 大丈夫か？」
「なぜ来たの．．？」

こない方がいい」
リンルリ「うしろだ!!」

「くっ．．ありがとうリンルリ」
俺は、この世界に居るのに、

俺だけあの力が使えないなんてことは、
あるのか？

いや、ないよな？

なら．．

迅「来い．．俺の悪霊．．」

「目覚めたようですね．．私は、リーン．．
貴方の悪霊です」

「あれは、死神と恐れられている．．リーン」

リーン「私は、死神．．何か大切な物を失い。
死んできた者にのみ使いこなせる力です」

迅「大切な物．．雪野。」

リーン「では、行きますよ？

一瞬で片付けます！！

両手を上にかざして下さい」

迅「こうか？」

リーン「そうです。では、行きます」

手を前に出すと。

黒い光が広がって行き．．

飲み込む．．

リーン「全て消えましたね．．」

「どうして．．なぜ貴方がそんな力を？まさか．．
向こうで戦っていた。

少女、ネクラ系少女が、

目の前で喋る。

迅「たいせつなものを失い、死んだからな．．お前、名前は、？」

「私は、郷野^{きょうの} 水溜^{みずる}よろしく．．」

その時、

幸仁が走ってくる。

幸仁「大丈夫？」

迅「無事、」

幸仁「俺達全員、同じクラスだから、よろしく．．俺は、恋愛関係
なら任せてほしい」

迅「水溜．．あいつ嘘言ってる？」

水溜「コクン・」

静かにうなづく。

幸仁「うっ・じゃ。俺、先帰る!!」
つづく

幸仁。（後書き）

嫌な事に巻き込まれてしまった。
迅、だが。不思議な力によって。
難を逃れる。

だが、次はなんだ？

次回・・・いきなりの転入生。

地図には存在しない町、ゴーストシティ・・・何が消えようとも。
永遠に光を・・・その町は、拒絶する。

転入生。(前書き)

俺こと。新川 迅は、あの戦いの次の日、俺は、登校していた。そこで、転入生．．．そいつの名は．．．

転入生。

迅「おいおいおいおい！！俺は、今、迷っている。迷っているぞおおおお！！」

そうなのだ。方向音痴という最悪の才能を持つ俺は、学校に行くのに迷っていた。

無性に叫びたい。

こう言う風に・・・

迅「学校どこだあああああつあああああ！！」

家を出るなり。近所の人に何だこいつと。冷たい視線を朝から浴び！行き会った。犬にいきなり噛まれたり。

ネコを触ろうとしたら、「シヤアア！！」と警戒され！！

おまけにいつも暗い街の中通学路を、歩いていたら。

上から、「カーカー」と不穏な泣き声が聞こえ。

何だ？と思い。上を見上げて。

カラスのフンと言う。なんともいえない。目覚ましをいただき！！

その上、方向音痴かよ！！ちくしょう！！」

嘆いてる俺の前に。

一人の少女が現れる。

水溜「おはよう・・・どうしたの？」

迅「聴かないでくれ・・・」

幸仁「やあ、迅、朝からどうしたんだ？」

まるで、最悪な目覚ましで。時計を投げつけて壊し。

今日は、学校だったときずき。

慌てて用意をすませ。

あわててきたら、まだセーフでしたって顔だぞ？」

彼は・・・俺の全てを、

ぴたりと当ててくれた。

ご親切に・・・

こんな親切いらねえ！！

水溜「大丈夫だよ．．もてないのにナルシストさを保ってる。あの人は、

違うから．．」と．．郷野 水溜（ネクラ系．．美少女、ミスネクラ）は、夢野 幸仁（自分は、もてないのに、

ナルシストさをたまちつづける。少年を指差す）

幸仁「あさからそれは、ないだろ．．僕だって、女のメルトもくらは．．．

女のメルトもくらは．．．
いない」

少し期待をさえつつも、自分の携帯の友達の現実にはきずきながら。その少年は、言う。

幸仁「現実には、厳しいよ．．二次元に逃げたい気分だ。」

迅「お前、今なにげすこい事言ったぞ．．」

水溜「うん．．しかも。かなり引かれる言葉を．．」

幸仁「先に行ってくれ。。今日は休む．．」

と、背中を落とすナルシは、帰っていく。

でも．．下を向きすぎて前が見えていないようだ。

水野「危ない．．」

幸仁「なに？がはっ！」

迅「そこ．．電柱。」

幸仁「無念だ．．」

水野「先いこ．．なんだか大変そうだし」

迅「だな．．じゃあな。」

俺より最悪な少年。」

幸仁「ままでえええ」

俺は、うるさい奴をそっちにおいておき。

学校の教室に居た。

今日は、転入生がくるらしい。

男か？女か？

と言う。好奇心多せいの感情をいただく。

が．．周りの奴らの方がすごかった。

まるで．．回転寿司でレールを見ながら、

まだかな．．まだかなと、前の席まで見る。

卑しき子供のようだ。

そんな時、転入生がくる。

す．．

「どうも。転入生の迅雷 芽衣華です。（じんらい めいか）」

卑しき子供達（生徒）「おおお！！かわいいじゃん？胸でええ！！俺のタイプだわ」

芽衣華「よろしくねっ！」

卑しき子供達（生徒）「おれ、あいつの隣だつてさ。

ずるいぞ！！裏切り者！！かわれ！！お前には、ふさわしくない！！」

まる職おまけつきのおもちやをかってもらえず。

かって、かって。とダダをこねる子供のようだ．．

これが俺の正直な感想。

でもまて？迅雷？

確か幸仁が言っていた。

命令をした奴．．

迅「幸仁．．あいつか？」

幸仁「そのとおり。放課後呼び出す」

水溜「あの子なの？」

幸仁「間違えない」

どうやら、あの子で決定のようだ。

俺の中で怒りが暴走する．．

でも、まて？なぜここにいます？

あいつに未練なんかあるのか？

あの子も、殺されたって口か？

芽衣華「よろしくねっ？」

俺の目の前にそいつが居る。

迅「．．．ああ。よろしくな．．．人殺し．．．」

芽衣華「なんの事かな．．．分からないよ」

奴は、下を向きいきなり暗くなる。

絶対にあいつだと確信した。

生徒「おいおまえ！！転入生に何言ってるんだ！！あやまれ！！」

迅「外野は、黙ってる！！！！」

生徒「な、何だよ。変な奴だな？」

つづく。

転入生。(後書き)

学校に転入生・すごい人気だ。

だが、俺は、そいつを好きにならない。

そして、受け入れない。

人殺しなのだから。

次回・放課後。

地図には存在しない町。ゴーストシティ・何が消えようとも。
永遠に光を拒絶する。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6358y/>

ghosta city（（ゴーストシティ））

2011年11月21日13時39分発行